

## 野川 (東京都)

土岐 太郎

Q・1

野川

Q・2

野川は東京にあるにもかかわらず人工的な感じはせず、なるべく自然な感じを出そうとしている川である。水際まで降りられる階段、川沿いの遊歩道やサイクリングコース等が整備してある。川幅はあくまでも目測なので分からないが、大体10mぐらいだろうか、公園の間を緩くカーブしながら、ゆったりと流れている。両岸には草が生え、岸辺の道や橋の上からは、自然の姿に近い川景色を眺めることができるし、柵がないので水辺におりることもできる。しかも、水量はそれほど多くはないので小さな子供が入って遊べる。今は冬なので、子供が水遊びをしている光景を目にすることもないが、夏場は土日ともなれば子供ずれの家族が水遊びをしている。つまり、この川はどんな姿をしているか……。とても、平和な姿をしている。



Q・3

私は、小金井市の前原町というところに住んでいる。家からI C U迄は、自転車で十五分くらい。東八沿いに学校にいてもいいのだが、交通量も多いし、空気もよくないので、いつも野川公園の中を突き抜けて学校まで通っている。毎朝ここを通るが、川が流れているということもあるのかもしれないが、飽きるということがない。雨の日は少しつらいが、晴れの日、川は溢れんばかりの太陽の光を受け、その反射で川はキラキラ光っている。近くに幼稚園か保育園があるのか、まだ、歩き始めたばかりの子供たちが、保母さんに見守られ、危なげな足取りで歩き、遊んでいる(たまにこけたりもしている)。犬の散歩をしているお婆さん。ランニングをしているおじいちゃん。この人達は、野川に自然と引き寄せられてやってくるのだろうか。たぶんそうだろう。だれも、自動車がたくさん通り、排気ガスの臭いがする東八道路沿いはあまり通りたくはないのだろう。私はこの川の流れを朝自転車をこぎながら横眼にみると、何故か力が湧いてきて「よし今日も一日頑張るやろう」と思う。野川は私にとって元気を分けてくれる大切な存在である。そして、この野川に元気をもらっているのは私だけではないのだろう。

夜ここを通るとすごく暗い。大学生のわたしでも、少し怖くなってしまいくらいである。それもその筈、ここ野川公園には街灯がないのだ。野川沿いにはホテルのために生息地を確保したりしているのだから、その配慮もあるのだろう。だから、雨の降った夜などに、野川公園の中を帰ると、途中ところどころ舗装されていないところがあるので、ぐちゃぐちゃになってしまう。だが、全部をひっくるめて野川公園は、人々の憩いの場だな、やっぱりいいところだなと思う。

Q・4

野川沿いに、いくつもある湧水は、このあたりの農家の生活用水とかつてはなってい

た。「お鷹の道」というものがあるらしく（今もあるかは不明）、そこにそって流れる水路を土地の人は「元町用水」と呼び生活用水として使用していた。野川沿いのあるところでは、今も当時の洗い場が残り、今も農家の人の野菜を洗う姿を見受けることができるらしい。用水にそった農家では、裏木戸を開けるとそこには用水が流れ、洗い場が作られていた。毎年、年の暮になると、元町用水の恩恵を受ける家々では「ごへい」を流れのそばにさし、感謝の気持ちを表わすとともに水が枯れないようにと願う習慣があり、この習慣は今もなお続いているらしい。

野川には、数ヶ所で水車がまわり、村人たちが米をついたり、粉をひいていたらしい。むかしは「ハケ」の湧水を利用した「わさび田」があったらしく、ひところは、青々とした葉が一面に広がっていたということである。今では 湧水の不足から栽培不能ともいわれている。

野川は、過去何回か台風のために洪水をおこしたらしく。現在の野川は40年ほど前あった改修工事で川幅を大幅に拡幅、湧水池も備えたため洪水の心配がなくなる。以前は川幅が狭く、蛇行を繰り返し、長雨が続くと氾濫、周囲の田畑は冠水したそうである。戦後、人口が急増したために下水道整備が追いつかず、家庭排水は野川へ流れこむようになり、非常に汚くなってしまったらしい。

#### Q・5

野川は、国分寺市恋ヶ窪付近を源とし、国分寺崖線の湧水を集めながらほぼ南東に流れ、入間川、仙川を合流して二子玉川付近で多摩川に合流している全長20.23kmの河川である。野川の本水源は「ハケ」からの清らかな湧水。野川には国分寺崖線沿いに数多くの湧水地があり、世田谷区内の崖線沿いだと実に35ヶ所の湧水地があるという。これら湧水地と、湧水地を育むハケの森の豊かな自然のおかげで、野川沿いには実に多くの生物がいる。ちなみにこの「ハケ」という言葉は大岡昇平の『武蔵野夫人』の冒頭に登場し有名になった。上流部ではかつては「ハケ」の豊富な湧水を利用してワサビ田も多く見られましたが、都市化によって現在、その数は少なくなっている。そして、富士見大橋下流左岸の「ハケ」からは 横穴墓が多数発見されたりもしている。崖線沿いには数多くの湧水群と豊かな森がありカワセミなど100種を超える野鳥、ホタル・カブトムシなどの昆虫、メダカ・カメ・ヘビ・タヌキなどの魚、小動物を育てている。

#### Q. 6

野川には、この自然を何とか次の代、そのまた次の代まで残そうと、清掃や自然学習などを通してよりよい野川をのこそうとして活動されている人達がいる。わたしは、通学路として野川沿いを使っているが、ゴミなどはめったに見かけない。活動を始めた当時は、ゴミが山ほど出ていたみたいであるが、もうそんな事もないのではないかなと思う。ここは川をなると自然の形をしたまま、保存しようとしている。しかしいま、この豊かな自然環境を貫いて、外環道路を通す計画がいま持ち上がっているらしく、そういうことは、なるべくして欲しくないなと思う。また、宅地開発等で湧水量が減り、夏ごろに濁水に見舞われることがあるらしく。次の代、そして、その次の代のためにも、この大切な自然を守っていききたいものである。